

学校・地域の概要

本校は、昭和50年4月、丹後町立上宇川小学校・下宇川小学校・下宇川小学校袖志分校・竹野小学校此代分校が統合し、現在地に校舎を新築して丹後町立宇川小学校として開校した。昭和59年4月には、学区変更のため、此代地区児童は、竹野小学校に転校し、平成3年3月には、虎杖小学校が廃校となり、本校に統合された。

本校校舎は、明日に向かって羽をいっぱい広げた姿のように設計され、上野の台地から、どの教室も日々変化する日本海を眺められる。

眼前に広がる海岸線は、山陰海岸国定公園に指定されており、リアス式海岸に松の繁る島々が連なり、丹後松島と呼ばれ特に景観が優れている。北東部に位置する経ヶ岬には明治31年以来、今も絶えることなく光を投げかけ、沖行く船の安全を守る経ヶ岬灯台がある。

昭和55年に上野を起点にし、碓高原牧場・弥栄町・宮津市に通じる丹後縦貫林道の完成により、四季を通じて多くの観光客が訪れるようになった。弥栄町須川を源として、平地区で日本海に注ぐ約18kmの「宇川」は、河床が礫であるため清澄であり、溪流魚の生育に適し、天然遡上「鮎」の川として国内でも有名である。

また、尾和と袖志の中間、九品寺穴文殊境内に隣接して、航空自衛隊第35警戒隊経ヶ岬分屯基地もあり、標高451mの丘山山頂にはオペレーション施設がある。

校区は、丹後半島の先端から西方に伸びる地域で、背後に急峻な山々が海岸まで迫る海岸段丘の狭い土地に集落が形成されている。児童は、宇川に沿って形成された上宇川の6つの地区〈平・井上・中野・畑・井谷・遠下・鞍内〉から、また海沿いの地区を中心にした下宇川地区の7つの地区〈袖志・尾和・中浜・久僧・上野・谷内・上山〉から登校しているが、徒歩通学だけでなく、スクールバス・定期バス等で通学しているのも本校の特徴である。近年児童数の減少により、300名近くあった児童も、今は50名前後に激減し、新生徒がいない地区もある。

地域の主な産業は、農業・機業・漁業であるが、近年の不況に伴い転職や共働きと共に、他地区に勤めに出る姿が年々多くなってきている実情も見られる。

宇川小学校の児童は、明るく素直で人なつっこい面を持ち合わせ、子どもらしい旺盛な好奇心と純朴さを有している。しかし、近年の急激な時代の変化の中で、宇川の子どもたちの姿も次第に変容しており、児童課題も複雑・多様化の傾向にある。

宇川小学校の児童の多くは、宇川保育所・丹後こども園から本校に入学してきているが、航空自衛隊第35警戒隊の転勤に伴う児童の転出入もある。

平成21年度に上宇川保育所・下宇川保育所が統合されたことにより、子ども達は就学前の3年間、小学校の6年間をほぼ同じ集団の中で過ごしている。

学校再配置計画により平成26年3月をもって宇川中学校が閉校となり、平成26年4月から京丹後市立丹後中学校が開校された。宇川小学校の児童も卒業後は、丹後中学校へ進学し、中学校から新しい集団の中で過ごしている。

平成28年度からは、豊栄小学校・間人小学校・丹後中学校・丹後こども園・宇川保育所とともに、丹後学園として小中一貫教育を実施しているが、再配置により平成31年度から丹後学園は、宇川小学校・丹後小学校・丹後中学校・丹後こども園・宇川保育所の5つの園・所・校となった。